公益社団法人 静岡県山林協会

森とくらし

2018年
382
11月15日

県産材の需要と供給を一体的に創造しよう!!

■表紙写真　題名：雪上がりの朝　撮影場所：富士市南松野　撮影者：宮崎泰一 氏（富士市）

本誌はホームページでも掲載しております。是非ご覧下さい。URL：http://www.moritohito.jp

ミックス
責任ある木質資源を使用した紙
FSC™ C003512

INDEX

2-3 **事業体等取材 No.8**（静岡県森林組合連合会）
県産材の取扱量増と安定供給にむけて
～木材コーディネーターの取り組み～

4 **支部だより①**（賀茂支部）
町有林の森林整備と木製机・椅子の製作について

5 **支部だより②**（西部支部）
修行を活かした林業振興

6 **県庁だより①**（静岡県議会森林・林業・林産業活性化促進議員連盟）
林活議連ベトナム視察研修報告

7 **県庁だより②**（森林整備課）
美しい森林景観をつくっています

8 **本部情報**（告知板）
治山・林道等工事コンクールの結果報告

8 **森林・林業関係のイベント等予定紹介**
講演会「世界新秩序にどう立ち向かうか」

別冊折込
平成30年度しずおか森林写真コンクール受賞作品
平成30年度治山・林道等コンクール結果
平成30年度(一社)日本治山治水協会・日本林道協会主催の治山林道コンクール受賞結果

事業体取材 No. 8

県産材の取扱量増と安定供給にむけて
～木材コーディネーターの取り組み～

静岡県森林組合連合会

▲ふもとっぱらにて

本県の素材生産量の約半分を取り扱う県森連から県産材の有効活用にむけ組織改正などを含めた新たな取組方向について紹介して頂きました。

静岡県森連とは

森林組合は、森林組合法に基づき設立され、森林所有者が組合員となって組織されている協同組合です。市町村ごとの森林組合、都道府県ごとの県森林組合連合会、そして全国森林組合連合会の三段階で構成されています。本会（静岡県森連）は全20の森林組合で構成されています。

本会は県庁９階の本部及び３事業所（天竜・静岡・富士）の体制で静岡県の林業を活性化し豊かな森林資源を循環利用していくため、表１の各部門において森林組合ならびに関係団体と手を取り合い事業展開しています。

表１　主要な事業一覧

部門名	主な事業
指導部門	各種研修・講習会開催、森林組合運動の推進、林業労働対策（「緑の雇用」事業等）、森林組合指導監査、木材活用推進、ビジネス林業促進事業、広報活動
販売部門	販売事業（天竜・静岡・富士事業所、木材流通課）、林産事業
森林整備部　門	森林整備事業、利用事業（山林境界調査・保全事業、森林保険事業等）、福利厚生事業、購買事業、金融事業

世界と日本の木材需給の動向

皆様もご存じのとおり、国産材を取り巻く状況はここ10年くらいで大きく変化しました。ロシアの資源保護政策による原木輸出の禁止から始まり、南洋材輸出国の経済成長による木材需要の高まり、南洋材資源の減少・生産現場の奥地化による輸出量減少と高価格化、中国の禁伐と経済急成長に伴う北米材・北欧材・北洋材・南洋材の爆買いによる価格上昇などが続き、世界の木材需要が大きく変化したためです。こうした主要国の需要動向の変化や、日本国内における森林資源の充実、技術革新による合板・集成材等の原料としての国産材利用の増加により、木材輸入量は平成８年をピークに減少しています。

また、林業政策では国産材の供給・利用量増加を目的とした合板・製材生産性強化対策事業による合板・製材工場等の整備に加え、原木を安定供給するための路網整備が推進されています。これによりこれまで手入れが行き届かなかった森林の間伐や搬出が進み、持続可能な森林利用が期待されます。

県内素材生産量の約半分を取扱う県森連の木材販売事業

国産材需要が増大する中、静岡県では県産材の安定供給と需要拡大を図る林業施策を展開し、平成29年の県内素材生産量50万㎥の目標に対し、46.3万㎥を達成しました。

このような状況の中、本会最大業務の木材販売事業は５つの目的に沿って活動を展開し（図１）、平成24年度以降、取扱量を伸ばしております。平成29年度は過去最高の220,464㎥（市売り129,937㎥、直送90,527㎥）となり県内素材生産量に対して47.6％を占める結果となりました。また、内数として森林認証材取扱量も83,238㎥となっています。（表２）

1　適正な仕分：木材の適正な評価
2　公正な価格：木材価格のイニシアチブを握る
3　木材代金の決済
4　県産木材の安定供給
5　情報の収集と発信

図１　木材販売事業の目的

表２　素材生産量および取扱量の推移

年度	全国素材生産量（千㎥）	県内素材生産量（千㎥）	県森連取扱量（㎥）	
			合計（対県内生産量%）	うち直送
H24	18,479	276	160,090（58%）	13,866
H25	19,646	317	160,307（50%）	11,747
H26	19,916	344	173,837（50%）	22,084
H27	20,049	378	195,867（52%）	62,932
H28	20,660	415	214,329（52%）	75,418
H29		463	220,464（48%）	90,527

平成30年度森林・林業白書、平成29年度静岡県森林・林業統計要覧参照

合板工場の稼働により直送取扱量が伸張した一方、従来の市売取扱量は減少しています。これは全国的にも同様な傾向が見られますが、中小製材工場の減少を起因とした市売事業の縮小による販売方法の変化が起こっているためです。また、少子高齢化に伴う住宅着工件数の減少により、川下のハウスメーカーでは合板やCLTなどを利用する住宅工法が増え、木材の工業製品化が見込まれています。県内に限らず県外への販売も視野に入れた業務展開を行わなければ、増産された原木が市場に溢

▲森町森林組合一の瀬土場

▲森林組合おおいがわ桑野山土場にて

れることになってしまいます。また原木価格が上がらない状況下で山主の手取りを確保することも課題になっています。本会においてもこの変化に対応するための改革が必要となりました。

状況変化に対応した組織改正

県内素材生産量に対する本会の販売取扱量は全国的にもトップクラスであり、各森林組合および関連林業団体の協力や連携なくして成しえることはできませんでした。このように量を纏める力を持つ本会は、県内に合板工場を誘致したことが一つのきっかけではありましたが、国や県の林業政策と国産材の需給動向の変化に対応するため、平成28年に組織改革を行い流通経費を低減できる直送体制の推進や合板・製材工場に木材を安定供給するために必要となる山土場での仕分け及び付加価値を高める造材指導などを行う木材流通課を創設しました。

現在、木材流通課所属の木材コーディネーターは３事業所に配置され、各地区の森林組合をはじめ林業事業体が生産する原木の流通をコーディネートし、市場への優良材の集荷や国産材製材工場などへの協定販売*と直送体制の確立に取り組んでいます。

＊協定販売：「原木の安定取引に関する協定」。㈱ノダや天竜材水平連携協議会、地域製材工場等ネットワークと丸太供給に関する協定を締結。樹種及び数量や規格、価格決定方法などを規定。

木材コーディネーターの仕事

木材コーディネーターには次のような役割があります。一つ目は、森林組合系統の第一義でもある山主から預かった財産（森林）の対価をしっかり還元できるよう原木の造材や仕分を指導し売り方の提案を行っています。二つ目は、国産材製材工場などの協定販売先へ需要に見合った木材を安定供給するために県内の伐採現場の立木がどんな品質でどれほどの量があるか把握することです。これを把握していなければ需要先へ売り込むことはできません。三つ目は、現場担当者とコミュニケーションや情報交換を行うことです。コーディネーターは現場担当者に、長さ径級等どのような丸太が市場で求められているのか情報を提供します。現場担当者はコーディネーターに、現場作業の進捗やどのような立木があるのか情報を提供してくれます。情報のギブアンドテイクを行うことで、注文材などへの迅速な対応ができます。四つ目は、生産された木材を需要先に運搬するためのトラックの配車業務を行っています。各市場や中間土場、林道の広さによって配車するトラックの大きさは変わってきます。せっかく生産された丸太を土場に滞留させておくわけにはいきません。木材流通課が創設され、直送事業を拡大させていく中でこの配車業務は非常に重要であり、効率的な木材の流通が可能になりました。民間の運送業者だけでなく本会でもフルトレーラーとグラップル付のトラックを購入し、それを森林組合に貸与し県内各地で活躍しています。

▲㈱ふもとっぱら社有林にて

今後の展望

木材コーディネーターにより、“市場で待つだけでは開拓できない流通経路”を広げることができました。今後は県内工場への直送を基本とした協定量の達成を目指すだけでなく、品質に見合った販売先への供給を念頭に、森林組合や林業事業体を支援していきます。そして近隣の県森林組合連合会と連携して県外の需要動向の情報収集も行っていきます。今後ますます木材コーディネーターの活躍の場が広がっていくものと思われます。一見相反するようにも見える市売販売と協定による直送販売の両立を図り、各事業所と一体となって他県産や外材との競争に負けないよう流通の変化に対応した木材の集積基地と情報の発信基地となるよう努めてまいります。

支部だより①

町有林の森林整備と木製机・椅子の製作について

西伊豆町産業建設課

▲一色町有林

成熟した森林資源を有する西伊豆町から資源活用や木材利用の取り組みについて紹介して頂きました。

西伊豆町の概要

西伊豆町は静岡県の東部、伊豆半島西海岸のほぼ中央に位置します。町の西側は駿河湾に面し、東、南、北の三方は天城山脈及びその支脈に囲まれている渓谷型の臨海山村で、天城山脈一帯及び海岸線の大部分は富士箱根伊豆国立公園区域となっています。全国的にも有名な景勝地である堂ヶ島や黄金崎、また、豊富な湯量を誇る温泉を活用した観光産業をはじめ、駿河湾を舞台とした漁業、天城山系の湧水を活用したワサビ栽培を代表とする農業など、豊かな自然を背景とした生活が営まれています。

町の総面積は10,554haですが、このうち森林面積が9,438haと約９割を占めています。森林整備計画の対象としている森林は6,976haで、うち約６割にあたる4,052haがスギを主体とした人工林です。人工林の９割以上は40年生以上と、資源として成熟しており、積極的な利用が望まれるところですが、小規模かつ分散した所有形態であるため、施業の共同化が遅れているのが現状です。今回はこの状況を踏まえ本町でも小規模ながら資源の活用に向けた取組を開始したので紹介します。

一色町有林における森林整備について

西伊豆町が含まれる賀茂農林事務所管内において、平成26年10月に、管内の森林資源の有効活用や、林業の活性化とそれに伴う雇用の拡大などを目的として、「南伊豆地域森林資源活用推進協議会」が発足しました。この協議会は管内の林業事業体や県・市町などで構成され、定期的な会議や研修会を通して情報共有と知識向上を図っております。平成28年度には協議会の活動の一環として、当町で森林整備の実施を検討していた一色町有林において現地調査及び森林施業プランの検討を実施し、結果を提案書としてまとめていただきました。林業専任の職員を配置することが困難な当町にとって、担当職員の知識不足を補ってくれる当協議会は、大変ありがたい存在です。

この協議会の提案を受け、当町では平成29年度から平成33年度までの５年間の森林経営計画を策定し、計画初年度となる昨年度においては、森林環境保全直接支援事業補助金を活用し、１kmの作業道開設と６haの間伐を行い、スギ・ヒノキ併せて480㎥の木材を搬出しました。収支結果は初年度ということもあり若干の赤字でしたが、今年度においても引き続き約５haの間伐と木材の搬出を実施しており、黒字化を目指しているところです。

木製机・椅子の製作について

子どもたちに木材に慣れ親しんでもらうとともに、物を大切にする心を育むことを目的として、平成27年度に町内の木工所に委託し、町内の間伐材を利用した机・椅子47台を製作し、町内全小学校の新入生に配付しました。この木製机・椅子についての生徒や保護者からの評判は上々で、他学年にも欲しいという声が多かったため、翌年度には240台を製作して全学年に配付し、その後も引き続き新入生に配付しています。なお、この机・椅子は個人への配付としており、学年が上がる際にも持って移動し、基本的に中学卒業まで同じものを使ってもらっています。

今後の展望

西伊豆町での取り組みは始まったばかりですが、将来は森林環境譲与税の活用も視野に、森林整備面積の拡大や小中学校の机等に加え公共施設での家具や室内の木質化などに拡大していければ考えているところです。

▲机・椅子

支部だより②

修行を活かした林業振興

浜松市林業振興課　神谷　　匠

▲林野庁の上司、オリパラ組織委員会
（ビレッジプラザ感謝状贈呈式にて）
本人：左から３人目

林野庁への派遣中に東京オリンピック・パラリンピック施設での国産材利用推進の業務に従事した経験等を紹介頂きました。

はじめに

浜松市は平成17年の合併により、全国２位の広大な面積になるとともに、市域の森林率が９％から66％に急上昇しました。豊富な森林資源を有効活用するために、本市では積極的にFSCを取得し、「育てる」林業から「売る」林業へと変革を続けた結果、FSC（FM）は市町村別取得面積全国１位の45,270ha（H30.10月現在）となりました。また、FSC（FM）だけでなく、FSC（COC）も70社以上が取得しており、日本一FSCを製品として提供できる地域であると言っても過言ではないと思います。本市がFSCで全国的に有名になったのも、多くの森林所有者、事業者のご協力のおかげであり、良い体制が築けていることは林業振興を推し進めていく上で、とても心強いものとなっています。

修業期間

このような豊富な天竜材を更に有効活用するため、知識を深めた職員の育成に向け、本市では近年、農林水産省林野庁に職員を派遣しており、私も平成28年４月から２年間、林野庁木材産業課に所属し、国の職員とともに業務を行なってまいりました。これまで森林・林業関係に携わったことのない私にとって、業界用語、そして国特有の言い回しに苦闘する毎日でした。しかし、周りの職員が参考になる資料をくれたりセミナーや施設見学に誘ってくれたりするなど、気さくに話してかけてくださったおかげで、厳しい修業期間も、様々な刺激を受け、多くの人脈を築く良い機会になりました。また、静岡県出身ということで半ば強制的に入った林野庁サッカー部も、その繋がりで業務が円滑に進んだり、ストレス発散・体力の維持増進になったりしたので、入部して（させられて？）良かったと思います（残念ながら上手くなったわけではないです）。

▲林野庁サッカー部（農水省屋上コートにて）

さて、その中で私が主に担当したのは、2020年に開催される東京オリンピック・パラリンピック競技大会で選手や関係者たちが使用する「ビレッジプラザ」という施設を、オリパラ組織委員会と協議しながら木造で建築されるよう調整する、というものです。進めていく上ではいくつかの難題や制約など苦慮することもあり、また、自治体にアンケートをとった際には、賛同するもの、批判的なもの、様々なご意見をいただきました。中には、林業に熱心な自治体のトップが直接連絡をしてくることもあり、オリパラへの関心の高さを感じました。最終的に参画自治体から木材を提供してもらい、大会終了後には同じ自治体に戻すというスキームで進行していくこととなりましたが、多数の自治体のご協力のもと、実際に木造で建築されることが決まったことは大変嬉しく思います。

これから

今年の４月から浜松市林業振興課での勤務がスタートし、主に予算、FSC、そしてオリパラを担当しています。この半年ちょっとで、予算担当の大変さに直面しつつ、巨大な台風24号の通過後に行われたFSCの年次審査を、先輩職員に頼りながらなんとか乗り越えてきました。林野庁での修行は終わったものの、こちらでの修行はまだまだ続きますが、その成果を発揮するため、担当業務のみならず地域全体を幅広く把握しながら、本市の武器であるFSC、天竜材の有効活用に取り組んでいきたいと思います。

また、林野庁で担当してきたオリパラのビレッジプラザに関しては、本市も参画し木材の提供をしているため、木材が戻ってきて再利用される最後までを、担当としてやり遂げられれば幸いに思います。

▲台風24号通過後に実施したFSC年次審査の様子（H30.10.1 春野の造林地にて）

県庁だより①

林活議連ベトナム視察研修報告

静岡県議会森林・林業・林産業活性化促進議員連盟
会長　中谷　多加二

森林・林業・林産業を応援する林活議連の皆様から目覚ましい経済発展が進み県産材の需要先としても有望なベトナムの視察結果を紹介して頂きました。

林活議連の活動

静岡県議会森林・林業・林産業活性化促進議員連盟は、県議会の会派を超えた67名の議員で構成し、本県の森林・林業・林産業の活性化を図ることにより、山村経済の振興及び県民の福祉向上に貢献することを目的として、調査・研究及び意見の集約と具申を行うなどの活動をしています。

今回は、本県の林業成長産業化に向けた施策検討の参考とするため、ベトナムの森林・林業・木材産業の状況を把握したので報告します。

ベトナム視察研修の概要

ベトナムでは、森林の乱伐などにより、現在政府による伐採制限がされるなど、森林を保護する政策が進み、森林認証の取得など、合法木材の生産の動きも活性化しています。また、ニトリファニチャーや住友林業など、多くの日本企業が進出し、事業を展開しており、木材を輸入しながら製品を加工、販売するなどの取組が行われています。

(1)　視察日

平成30年７月21日㈯～26日㈭

(2)　視察先

・ニトリファニチャーベトナムEPE
・住友林業㈱ベトナム及びヴィナエコボード
・ジェトロホーチミン
・TAVICO

(3)　視察者

中谷多加二、鈴木澄美、和田篤夫、鳥澤由克、土屋源由、野田治久（以上自民改革会議）、櫻町宏毅（ふじのくに県民クラブ）、桜井勝郎（無所属）　以上８名

各視察先の取組と所感

(1)　ニトリファニチャーベトナムEPE（説明者：白石管理GM）

東京ドーム約４個分もある広大な工場で、ベッドやソファー、棚、机、タンスなどの生産、梱包、出荷等を行っていました。家具の原材料は、後述するヴィナエコボードで生産されたパーティクルボードを使用しており、いかに良い製品を安く作るかという社訓が、無駄を省き材料をとことん利用する一貫生産として、随所に反映されている印象を受けました。

(2)　住友林業㈱ベトナム及びヴィナエコボード（説明者：住友林業㈱ベトナム　小野課長）

ヴィナエコボードは、家具などの内装板に使用するパーティクルボードの製造工場です。住友林業㈱がベトナムに進出した理由は、①安定調達が可能な植林木（ゴムやメラルーカなど）が活用できること、②労働コストが安いこと、③経済成長が著しいベトナム国内での販売が見込まれることによります。原材料は、３年ほどで成長する地元のゴムなどで十分とのことから、日本の丸太を輸入して使用することは、コスト面で難しいようです。

(3)　TAVICO（説明者：愛媛県森林組合連合会　井谷専務）

TAVICOは、大手の木材商社です。展示場内には、愛媛県産材展示コーナーが設けられていました。愛媛県産材を２年間に渡り試行的にベトナムに輸出し、ヒノキ丸太等が軌道に乗りつつありますが、量的には試験的な段階のようです。

海外に信頼できるパートナーが確保できれば、静岡県産材の需要拡大の可能性も広がると感じました。

▲愛媛県産材展示コーナー

おわりに

視察では、これからどんどん伸びるベトナム経済の勢いを感じ、私たちも気を引き締めていかないと、いつの日か追い越される思いがしました。また、この視察を生かした静岡県政を進めていかなければと再認識させられました。

最後に、視察でお世話になった皆様に心より感謝申し上げ、報告といたします。

▲TAVICOでの集合写真

▲ニトリでの視察状況

県庁だより②

美しい森林景観をつくっています

静岡県 森林整備課

富士山や伊豆地域などの優れた森林景観をさらに美しい状態で国内外に発信する取組を紹介頂きました。

はじめに

暑かった夏も遠い記憶となり、今はさわやかな秋を迎えています。森林は、柔らかな緑が交錯する初夏の新緑から紅葉で秋を彩る広葉樹林や、手入れのされた明るい針葉樹林の光差す光景など、季節を通じて見るものを感動させ、私たちを明るく豊かな気持ちにさせてくれます。

一方、ドライブなどで車窓から森林を眺めると、全てが美しい森林ばかりというわけでありません。間伐や枝打ちなど、もう少し手入れがされていれば、もっと心躍る景色になるのになあ、と感じることはありませんか。

富士山世界文化遺産関連

静岡県は、富士山が世界文化遺産に登録されたことを契機に、国内外から訪れる方々に、静岡県の美しい森林景観を見ていただきたいと考え、平成26年度から富士市・富士宮市を中心に、「富士山世界文化遺産森林景観整備事業」を県単補助で開始しました。

富士山本宮浅間大社など富士山世界遺産の構成資産へのアクセス道路沿線の暗く鬱蒼とした森林を、市町と協力し、間伐と搬出により景観面からの改善をしていくものです。

これにより、平成26年度から３年間で149haの森林が、明るくきれいに整備されました。

また、これらの効果に加え、「暗くて怖かった道路が明るくなり、安心して通行できる」「カーブの見通しが良くなり、視認性が向上した」「陽当たりが良くなり、冬場の道路凍結緩和になっている」など、実施した地域では大変好評で高い評価をいただき、景観向上の効果を実感しています。

▲整備前（富士市）

▲整備後（富士市）

東京2020オリンピック・パラリンピック自転車競技関連

平成27年には、韮山反射炉が世界文化遺産に登録され、2020年には東京2020オリンピック・パラリンピックの自転車競技のうち、トラックレース･マウンテンバイクが伊豆市で、自転車ロードレースが裾野市、御殿場市、小山町で開催されることとなりました。

そこで、静岡県は、「富士山世界文化遺産森林景観整備事業」に加え、伊豆地域に来訪される観客や選手に、美しい森林景観を見せるため、市町との協力のもと平成29年度から「伊豆地域森林景観緊急整備事業」を県単補助でスタートしました。

平成29年度は、韮山反射炉及び伊豆ベロドロームへのアクセス道路の森林景観整備が完了し、今年度は県道熱海大仁線や伊豆スカイラインなどの整備を進めているところです。

▲整備前（伊豆市）

▲整備後（伊豆市）

さらに、東京2020オリンピック・パラリンピック自転車ロードレースが、御殿場市・裾野市・小山町で開催されることが公表されたことから、新たに自転車ロードレースコース沿線の森林景観整備にも着手しています。

自転車ロードレースについては、観客だけでなく、出場する選手の目線にも配慮した森林景観整備が求められます。そのため、「森林景観モデル整備」を、小山町内の２箇所で本年９月から県営で実施するとともに、競技者や有識者の意見を聴取し、その結果を次の整備に反映させるための調査を進めています。

オリンピック･パラリンピックは、世界的なイベントであることから、美しい富士山と森林の景観を、観客や選手のみならず、全世界の人々に発信していきたいと考えています。

本部情報

30年度の治山・林道等の優秀工事が決まりました

静岡県山林協会では、森林の持つ多面的な機能が適切に発揮されるよう、治山・林道・森林整備等工事の中で、施工技術の優れた工事や木材を積極的に工夫して使用した施工者等を顕彰し、森林土木技術者の育成と施工者の技術向上を図る「治山・林道等コンクール」を毎年実施しています。

今年度も各農林事務所から優れた工事等について推薦をいただき、審査の結果、下記の工事に対し山林協会長賞を授与することとし、11月２日㈮に表彰式を行いました。

表彰された工事は急峻な地形や厳しい気象環境など施工条件が厳しい場所で、いずれも作業員の安全確保に十分配慮しながら、高い技術力を発揮された工事であり、工事関係者の皆様の日頃の御努力の成果が表れていることが高く評価されました。

No.	受賞者	施工地	工事名
1	有限会社国本組	賀茂郡西伊豆町田子	29治山（予防）谷戸洞工事
2	東海建設株式会社	賀茂郡河津町笹原	29治山（緊急予防）陰山工事
3	土屋建設株式会社	伊豆の国市下畑	28治山（予防）出払工事
4	臼幸産業株式会社	駿東郡小山町生土	29治山（復旧）西沢川工事
5	有限会社キーオブライフ	静岡市葵区横沢	28治山（地すべり）横沢工事
6	株式会社木村組	静岡市葵区坂本	29治山（水源再生）坂本・赤沢地区大鳥沢工事
7	北川工業株式会社	静岡市葵区大原	28治山（復旧）森工事
8	大井建設株式会社	島田市川根町家山	29県単治山（県営）新代沢工事
9	株式会社三井組	御前崎市白羽	28治山（防災林造成）中西川左岸（ゼロ債）工事
10	金原建設株式会社	掛川市沖之須	29治山（防災林造成）沖之須１工事
11	株式会社日さく静岡支店	浜松市天竜区龍山町瀬尻	28治山（地すべり）下里工事
12	有限会社飯島建設	浜松市天竜区水窪町奥領家	28治山（復旧）宮ノ沢工事
13	株式会社西村組	浜松市天竜区春野町宮川	28県単治山（県営）畑木工事
14	株式会社渡辺兄弟工業	浜松市天竜区春野町川上	28治山（復旧）太田（28ゼロ債）工事
15	有限会社飯島建設	浜松市天竜区水窪町奥領家	29治山（復旧）宮ノ沢工事
16	株式会社小林組	浜松市天竜区春野町杉	29治山（予防）八木沢工事
17	渡邊工業株式会社	裾野市須山	28森林基幹道裾野愛鷹線１工区工事
18	拓進建設株式会社	富士宮市上稲子	28集落間林道整備天子ヶ岳線工事
19	株式会社水永建設	静岡市葵区牛妻	29道整備推進交付金俵峰門屋線３工区工事
20	有限会社キーオブライフ	静岡市葵区郷島	29道整備推進交付金俵峰門屋線２工区工事
21	株式会社田崎組	島田市川根町家山	29ふれあい林道整備大尾大日山線工事
22	とやま建材株式会社	浜松市浜北区三大地	28山村道路網整備観音山１線２工区（28ゼロ債）工事
23	森吉組株式会社	浜松市天竜区春野町豊岡	29道整備推進交付金大久保線１工区工事

このうち特に優れた「28治山（復旧）森工事」（北川工業株式会社 施工）、「29道整備推進交付金俵峰門屋線３工区工事」（株式会社 水永建設施工）の２件を、一般社団法人日本治山治水協会・日本林道協会が主催する治山林道コンクールへ推薦したところ、北川工業株式会社様が林野庁長官賞を、また株式会社水永建設様が日本林道協会長賞を受賞されました。

イベント紹介

「世界新秩序にどう立ち向かうか」

講　　師：水野隆徳　氏　（国際エコノミスト　僧侶）
日　　時：11月28日（水）15時～17時
場　　所：ホテルシティオ静岡　５階
　　静岡市葵区伝馬町1-2　TEL 054-253-1105
問合せ先：（公社）静岡県林業会議所　TEL 054-252-4857

講演会参加者募集

「森と人」 公益社団法人 静岡県山林協会
編集・発行　静岡市葵区追手町9-6　県庁西館9F
TEL:054-255-4488/FAX:054-255-4489

平成30年度
しずおか森林写真コンクール受賞作品

最優秀賞

雪上がりの朝
宮崎　泰一（富士市）
撮影地：富士市南松野

審査講評

審査委員長
竹林　喜由

今年度の応募総数は251点、応募人員74名(前年度応募数184点、応募人員60名)と、前年より人員で14名 、作品で67点、どちらも増加となりました。

増加要因として、今年度より応募要領をプリントサイズ４切から２Ｌに変更したこと、データーでも応募可能としたことで、応募し易くなったことが大きいといえます。

去る９月21日、８名の審査員により審査が行われました。例年のように応募者の氏名は見ないうえで審査を行い、下記の結果となりました。

最優秀賞（静岡県知事賞）は、**宮崎泰一氏**の「**雪上がりの朝**」に決定しました。山の上からの撮影で、雪を被った森林を画面の前面に大きく入れ、遠景に雪の富士山を配した構図でまとめています。前面の森林の、黒い塊の中には紅葉の赤色が残っており、白い雪や遠景の青色との対比が、奥行きと重量感を出し、冬の朝の凛とした空気感が伝わってきます。作者の力量を感じさせてくれる素晴らしい作品です。

特　選（静岡県山林協会長賞）は、**髙橋正雄氏**の「**錦秋の渓谷**」と**相羽強氏**の「**木の職人**」、（静岡県グリーンバンク理事長賞）は**勝亦道子氏**の「**キリンの木**」に決定しました。

「**錦秋の渓谷**」須津川渓谷の紅葉です。緑と紅葉の赤や黄色の配色が美しく、滝の姿もきれいで素晴らしい風景です。撮影の時期やポジション、フレーミングも的確で良い作品になっています。

「**木の職人**」神社の屋根の、葺き替え工事の状況でしょうか。テレビなどの映像で見ることはありますが、現実の場面に出会えることは珍しい事だと思います。職人さんが細い板を竹釘で止めている作業を、的確なポジションとフレーミングで撮影しています。貴重な記録です。

「**キリンの木**」富士山麓西臼塚の公園にある大木です。キリンの背中に子供が乗って、林の中を散歩しているような夢のある楽しい写真にしています。木々の緑も美しく、子供と作者の楽しい気持ちがストレートに感じられる、好感のもてる作品になっています。

準特選（静岡県山林協会長賞）は**佐藤美栄子氏**の「**森林と共存**」、**勝又守洋氏**の「**清流の恵み**」、**山崎俊泰氏**の「**土砂崩れ復旧工事**」、**黒田敏夫氏**の「**シイタケ栽培**」。（静岡県グリーンバンク理事長賞）は**松浦嘉人氏**の「**緊張の瞬間**」に決定しました。

「**森林と共存**」伊豆松崎町の、森林に囲まれた棚田の風景です。高い位置から田植えの状況を俯瞰して撮影していますので、農作業の人々と棚田の全景が良く確認できます。棚田の保全管理には大変なご苦労があるでしょうが、この風景が末永く続くことを願います。

「**清流の恵み**」伊豆のわさび田の風景です。伊豆は美しい森林の中に、水温が一定で綺麗な湧き水のある場所が多いため、わさびの栽培が盛んです。日よけの役割のために植えられた木々がバランスよく配置され､緑一色の風景が清々しく感じられます。

「**土砂崩れ復旧工事**」近年の豪雨災害等で、山崩れが多く発生しています。人々の生活と山林や林道を守るため、工事は必要不可欠なものです。工事の全容がわかる場所からの撮影で、普段は目にする機会が少ない貴重な光景を記録しています。

「**シイタケ栽培**」普通は林の中などでのシイタケの栽培が多いのですが、ここはテントのような囲いの中で栽培しているようです。最近は猿、鹿、猪などの獣の被害が増え、野外の農作物の栽培は難しくご苦労されることも多いようです。この人物の表情から、大切に育てている様子が伝わってきます。

「**緊張の瞬間**」林業体験ジャンルへの応募から受賞です。少年がチェンソーで丸太切りに挑戦しているシーンを撮影しています。少年や介助の大人の、緊張した感じが伝わってくる良い作品です。この少年達が、次世代の林業の担い手になることを期待したいと思います。

このほかに入選20点が選ばれましたが、例年以上に力作が多く、どれが受賞してもおかしくない作品ばかりでした。

次回も、さらに多数の応募があることを期待しています。

特 選

錦秋の渓谷

髙橋　正雄（富士市）

撮影地：富士市　須津川渓谷

特 選

木の職人

相羽　強（森町）

撮影地：袋井市

特 選　静岡県グリーンバンク

キリンの木

勝亦　道子（富士市）

撮影地：富士宮市　西臼塚

準特選

森林と共存

佐藤　美栄子（茅ヶ崎市）

撮影地：賀茂郡松崎町

準特選

清流の恵み

勝又　守洋（裾野市）

撮影地：伊豆市

準特選

土砂崩れ復旧工事

山﨑　俊泰（掛川市）

撮影地：浜松市天竜区龍山町

準特選

シイタケ栽培

黒田　敏夫（静岡市）

撮影地：静岡市清水区立花

準特選　静岡県グリーンバンク

緊張の瞬間

松浦　嘉人（浜松市）

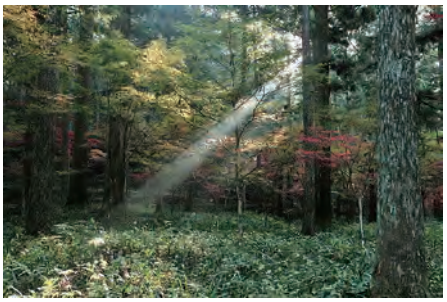
撮影地：浜松市中区

入 選

森のシャンデリア
太田　稔（浜松市）
撮影地：浜松市天竜区横山町

グランドキャニオン
飯田　龍治（御殿場市）
撮影地：駿東郡小山町　須走口

連携作業
兵庫　泉（島田市）
撮影地：島田市大代

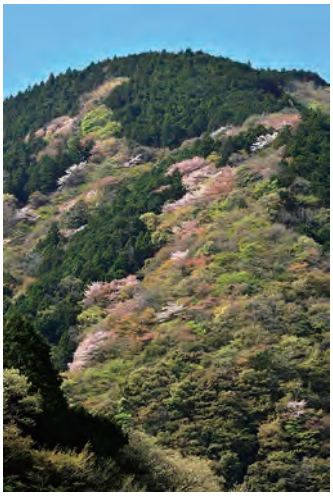


森の朝
加藤　義昭（浜松市）
撮影地：周智郡森町　小國神社

父ちゃん頑張って
木下　安雄（浜松市）
撮影地：浜松市天竜区佐久間町大井

子供達バランス上手
稲葉　浩哉（静岡市）
撮影地：静岡市葵区千代

富士を背に
村上　雅已（静岡市）
撮影地：静岡市清水区



春の彩り
綾木　恵子（静岡市）
撮影地：静岡市葵区梅ヶ島

伐倒の時
大野　久美子（静岡市）
撮影地：静岡市葵区腰越

搬出
牧野　光伸（浜松市）
撮影地：浜松市天竜区春野町

入 選

インスタ映え
藤井　昭浩（松崎町）
撮影地：伊豆市修善寺

下刈り作業
大泉　裕（横浜市）
撮影地：熱海市

川に遊ぶ
小松原　清（浜松市）
撮影地：周智郡森町

森林浴
大塚　美代子（静岡市）
撮影地：静岡市葵区水見色

松林整備
望月　正晴（静岡市）
撮影地：富士市田中新田

もみじはやしの賑わい
佐藤　泰弘（茅ヶ崎市）
撮影地：伊豆市

ボクも高く積むよ
中西　茂子（静岡市）
撮影地：静岡市清水区

新緑を駆ける
松崎　誠司（富士宮市）
撮影地：富士宮市　ふもとっぱら

次の百年へ
岩浅　利泰（御殿場市）
撮影地：富士市

読書の時間
滝井　千恵子（静岡市）
撮影地：藤枝市瀬戸ノ谷

平成30年度
治山・林道等コンクールの優秀工事（23工事）

受 賞 の 皆 様

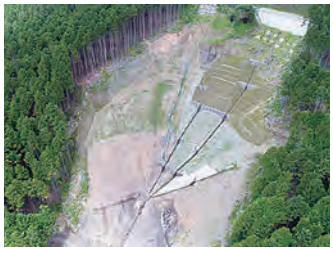
◎治山工事

㈲国本組
No.1 谷戸洞

東海建設㈱
No.2 陰山

土屋建設㈱
No.3 出払

臼幸産業㈱
No.4 西沢川



㈲キーオブライフ
No.5 横沢

㈱木村組
No.6 坂本・赤沢大鳥沢

大井建設㈱
No.8 新代沢

㈱三井組
No.9 中西川左岸

金原建設㈱
No.10 沖之須１

㈱日さく　静岡支店
No.11 下里

㈲飯島建設
No.12 28宮ノ沢

㈱西村組
No.13 畑木

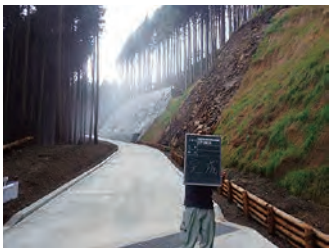
㈱渡辺兄弟工業
No.14 太田

㈲飯島建設
No.15 29宮ノ沢

㈱小林組
No.16 八木沢

◎林道工事

渡邊工業㈱
No.17 裾野愛鷹線１工区



拓進建設㈱
No.18 天子ヶ岳線

㈲キーオブライフ
No.20 俵峰門屋線２工区

㈱田崎組
No.21 大尾大日山線

とやま建材㈱
No.22 観音山１線２工区

森吉組㈱
No.23 大久保線１工区

一般社団法人 日本治山治水協会及び日本林道協会が主催する「治山林道コンクール」の受賞結果

当協会の治山・林道等コンクールの優秀工事のうち特に優れた２工事を一般社団法人日本治山治水協会及び日本林道協会が主催する「治山林道コンクール」に推薦したところ下記のとおり受賞されました。

◎治山工事部門　林野庁長官賞

北川工業株式会社
No.7 森（葵区大原）

◎林道工事部門　日本林道協会長賞

株式会社水永建設
No.19 俵峰門屋線３工区

※来年度もより多くの工事等が推薦されることを願っています。（事務局）